

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)垂水町HSマンション	階数	地上8F
建設地	吹田市垂水町3丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	38人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年6月 予定	評価の実施日	2019年9月1日
敷地面積	613㎡	作成者	Urbano Design 安松 高志
建築面積	343㎡	確認日	
延床面積	2,316㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算 ★★★★★

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.9

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	緑地を適切に配置することによって景観に配慮している。	その他 特になし。
Q1 室内環境	F★★★★の建材の使用を計画している。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー	断熱等級3を達成するための断熱配置を計画している。	LR3 敷地外環境 特になし。
	LR2 資源・マテリアル グリーン購入法適合商品の使用を計画している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0084

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)垂水町HSマンション							
	建設地	吹田市垂水町3丁目							
	用途/区分	集合住宅 事務所							
【評価結果】	CASBEE 総合評価			B+					
①	CO2削減			5					
②	みどり・ヒート アイランド対策			2					
③	建物の断熱性			3					
④	エネルギー削減			4					
⑤	自然エネルギー直接利用			—					
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

エネルギー消費量の報告

対象外

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.9	5
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	2.9	3
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.7	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	—

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		